

七十三號復祿ノ件、第七十四號復祿ノ件、第七十五號柳ヶ瀬隧道改修及水災補助ノ件、第七十六號復祿ノ件、第七十八號軍人軍族從軍病死者遺族扶助料及時賜金ニ關スル件、第七十九號復祿ノ件、第八十號東海道鐵道複線工事ニ付静岡名古屋間ニ新線路採用ノ件、第八十三號金祿公債證書不足額下付ノ件、第八十四號岩淵甲府間豫定鐵道一期線ニ線上ノ件、第八十五號復祿ノ件、第八十六號復祿ノ件、第八十七號木曾揖斐兩川間閘門設立ノ件、第八十八號復祿ノ件、第八十九號復祿ノ件、第九十號、金祿公債證書下付ノ件、其二十七通デアリマシテ其外ハ院議ニ付スルヲ要セズ留置キト致シマシタ譯デアリマス、第四回文書表ニ載セマシタ請願文書表中デ議院ノ會議ニ付スルヲ要スベシト議決致シマシタモノハ第九十五號復祿ノ件、第九十六號同上ニ通第九十七號モ同上、第九十九號軍人軍族從軍病死者遺族扶助料及一時賜金ニ關スル件、第百號電報線路架設ノ件、第百一號復祿ノ件、第百三號神戶稅關擴張波止場増築ノ件、第百四號、萬國博覽會開設ノ件、第百十號復祿ノ件、第百十一號復祿ノ件、第百十五號古社寺保存ノ件、第百十六號信濃川流末改修ノ件、第百十七號信用組合法制定ノ件、第百二十號復祿ノ件、第百二十二號復祿ノ件、第百二十九號復祿ノ件、第百三十號同上、第百三十二號信濃川改修ノ件、第百三十三號畜産事業報告ノ件、第百三十七號復祿ノ件、第百三十八號第百三十九號第百四十一號第百四十二號ハ同上デアリマス、第百四十三號三島町ヨリ下田町ニ至ル道路國道編入ノ件、第百四十五號阿武隈川改修ノ件、第百四十六號羽越聯絡鐵道第一期線ニ線上ノ件、第百五十號日光社殿修築ノ件、第百三十四號復祿ノ件、第百三十六號同上、第百四十號復祿ノ件、此三十四通デアリマス、其他ハ總テ院議ニ付スルヲ要セズトシテ留置キト致シマシタ譯デアリマス、此段御報告ニ及ビマス

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 谷子爵ハ委員會ニ退キタイト云フ請求ガアリマシタガ唯今ハ退カレテモ定足敷ニ滿ルデアリマス、別段御異議ナイト存ジマス御席退ニナッテ宜シウゴザリマス

(此時委員退席ス)

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 營業滿期國立銀行處分法案 政府提出衆議院送付、第一讀會ヲ開キマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマス

(有賀書記官朗讀)

營業滿期國立銀行處分法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治二十九年二月七日

衆議院議長楠本正隆

貴族院議長侯爵峰須賀茂韶殿

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ参照ノタメ茲ニ載録ス)

營業滿期國立銀行處分法案

第一條 國立銀行ニシテ營業滿期後國立銀行條例第十二條ニ依リ私立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續セントスルモノハ營業滿期ノ日ヨリ三箇月以前ニ營業繼續及定款改正ノ決議ヲ爲シ其ノ改正定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ營業

繼續ノ許可ヲ請フヘシ

第二條 前條ノ國立銀行ニシテ資本金額ヲ減少シテ營業ヲ繼續セントスルモノハ國立銀行條例第四十二條第四十三條及第四十四條ノ手續ヲ了シタル上前條ニ依リ營業繼續ノ許可ヲ請フヘシ但同條例第十七條ノ制限ヲ適用スル限ニアラス

第三條 營業繼續及定款改正ノ決議ハ國立銀行條例第六十九條格段決議ノ方法ニ依ル

第四條 營業滿期ニ至リ營業ヲ繼續セサル國立銀行ノ解散手續ニ關シテハ商法株式會社解散及清算ノ條項ヲ適用ス

第五條 國立銀行ハ營業滿期日ニ於テ其ノ發行紙幣ヲ悉皆消却シ能ハサルトキハ消却殘高ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ

私立銀行トナリテ營業ヲ繼續セムトスル國立銀行ニ於テ前項ニ依リ政府ニ納付スヘキ金額ノ借入ヲ必要トスルトキハ大藏大臣ハ無利子貸付ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第六條 前條第一項ノ金額ヲ收納シタルトキハ政府ハ其ノ預リタル紙幣抵當公債證書ヲ還付スヘシ

第七條 政府ハ國立銀行ヨリ納付シタル金額ヲ以テ紙幣消却ノ基金ト爲シ其ノ發行紙幣ヲ交換スヘシ

國立銀行其ノ紙幣消却殘高ニ相當スル金額ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ預リタル紙幣抵當公債證書ヲ賣却シ紙幣消却ノ基金ニ充ツヘシ

(政府委員男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 今日問題ト相成リマスル營業滿期國立銀行處分法案其他之ニ附隨致シマスル法案ニ就イテ一言申上ゲテ置キマスルガ御承知モアラセラル、通ニ此問題ハ既ニ屢々當議場ニ上リマシテ最早其利害ノ關係ト云フコトモ能ク明ナ事デアリマスルカラ立入ッテ申上ゲル必要ハアリマセヌデアリマスルカラツレハ悉ク省略致シマス、一言唯申シテ置キマスルノハ御承知ノ通ニ今年ハ既ニ最早滿期ニナルモノモ有マシテ之ガ處分ヲ早ク著ケマセヌト大ニ是等ノ銀行モ迷フ譯デアリマスルカラ既ニ此ノ如キ時機ニ達シテ居マスルカラ速ニ充分ノ御調査ヲ遂ゲラレテ政府提出案ノ通御協贊アラシコトヲ希望致シマス且ツ又昨年ト今年ハ多少違ヒモアリマスルカラシテ逐條ニ其他大體ノ事ニ附キマシテ御質疑等ガアリマスルナラバ私ナリ當務ノ政府委員ナリガ罷リ出テ如何ヤウトモ御答辯ヲ致スコトニ致シマスルカラドウゾ何分速ニ審議ヲ遂ゲラレテ協贊セラレンコトヲ希望致シマス

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 別ニ御發言モナイト存ジマスニ依ッテ本案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○男爵中川與長君 本案ノ特別委員ヲ議長ノ選定ニ任セラレタイ

○小原重哉君 贊成

○松本鼎君 贊成

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 中川男爵ヨリ委員ノ選定ヲ議長ニ託ス動議デゴザリマス贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵須賀茂昭君) 多數デゴザリマス、次ニ國立銀行紙幣ノ通用及引換期限ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ヲ開キマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマス

國立銀行紙幣ノ通用及引換期限ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治二十九年二月七日
衆議院議長楠木正隆

〔有賀書記官朗讀〕

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

第一條 國立銀行紙幣ノ通用期限ハ明治三十二年十二月九日トス

第二條 國立銀行紙幣ヲ所持スル者ハ前條期日ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年内ニ其ノ引換方ヲ政府ニ請求スヘシ

前項ノ引換期日ヲ過クルトキハ總テ所持人ノ損失トス

第三條 本法ハ官命又ハ平穩鎮店ニ係ル國立銀行發行ノ紙幣ニハ之ヲ適用セス

○議長(侯爵須賀茂昭君) 本案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○男爵中川與長君 本案ノ特別委員ハ前案ト同一ノ委員ニ付託セラレンコトヲ希望致シマス

○子爵秋田映季君 贊成

○議長(侯爵須賀茂昭君) 中川男爵ヨリ本案ハ前案ト同一委員ニ付託スルト云フ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵須賀茂昭君) 多數デゴザリマス、次ニ國立銀行營業滿期前特別處分法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ヲ開キマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマス

〔有賀書記官朗讀〕

國立銀行營業滿期前特別處分法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治二十九年二月七日
衆議院議長楠木正隆

貴族院議長侯爵須賀茂昭殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

第一條 國立銀行營業滿期前特別處分法

國立銀行ハ營業滿期前ト雖私立銀行トナリテ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二條 前條ノ國立銀行ハ營業滿期前ニ私立銀行トナリテ營業ヲ繼續スルコト及改正定款ノ決議ヲ爲シ其ノ改正定款ヲ添ヘ大藏大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第三條 前條營業繼續及定款改正ノ決議ハ國立銀行條例第六十九條格段決議ノ方法ニ依ル

第四條 第二條ノ許可ヲ得タルトキハ國立銀行ハ其ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ同時ニ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告シ異議アル者ハ三箇月内ニ申出ツヘキ旨ヲ報告スルコトヲ要ス

前項ノ期間ヲ過クルトキハ債權者ハ異議申出ノ權利ヲ失フモノトス

第五條 債權者第四條ノ期間ニ異議ヲ申出タルトキハ國立銀行ハ其ノ債務金額及約定期限内ノ利子ヲ辨償スヘシ

第六條 國立銀行ハ第五條ノ規程ニ從ヒ辨償ヲ了ヘ且ツ第四條ノ期間ヲ經過シタル後ニアラサレハ私立銀行トナルコトヲ得ス

第七條 過愆ナキ不知ノ爲メ第四條ノ期間ニ異議ヲ申出サル債權者ヨリ債務ノ辨償ヲ要求シタルトキハ銀行ハ約定期限前ト雖第五條ノ規程ニ從ヒ辨償スヘシ

第八條 營業滿期國立銀行處分法第二條及第五條ノ規程ハ營業滿期前ニ私立銀行トナル國立銀行ニモ之ヲ適用ス

第九條 營業滿期前ニ私立銀行トナル國立銀行ノ紙幣消却ニ付テハ政府ハ營業滿期國立銀行處分法第六條及第七條ニ依リ之ヲ處分ス

○議長(侯爵須賀茂昭君) 本案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉ニ移リマス

○男爵中川與長君 本案ノ特別委員モ前案ト同一委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○小原重哉君 贊成

○議長(侯爵須賀茂昭君) 中川男爵ヨリ、是亦前案ト同一委員ニ付託スルト云フ動議デアリマス、此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵須賀茂昭君) 多數デゴザリマス、次ニ鎮店銀行紙幣交換基金特別會計法第五條中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ヲ開キマス、通牒文ノミヲ朗讀致サセマス

〔有賀書記官朗讀〕

鎮店銀行紙幣交換基金特別會計法第五條中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治二十九年二月七日
衆議院議長楠木正隆

貴族院議長侯爵須賀茂昭殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

鎮店銀行紙幣交換基金特別會計法第五條中改正法律案

鎮店銀行紙幣交換基金特別會計法第五條國立銀行紙幣ノ下ニ左ノ二十三字

ヲ加フ
竝ニ營業滿期前ニ特別處分ヲ爲シタル國立銀行紙幣
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉ニ移リ
マス

○伯爵萬里小路通房君 此委員モ前ニ三法案ト同一委員ニ付託セラレシコトヲ
望ミマス

○男爵中川與長君 贊成

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 萬里小路伯爵ヨリ是亦前三法案ト同一委員ニ付
託スルト云フ動議デゴザイマス、此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、次ニ北海道鐵道敷設法案、公
爵近衛篤磨君外ニ名發議、第一讀會ヲ開キマス、提出文ノミヲ朗讀致サセマ
ス

〔有賀書記官朗讀〕
北海道鐵道敷設法案
右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也
明治二十九年二月十日

發議者 公爵近衛篤磨 外二名
贊成者 公爵二條基弘 外四十三名

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

第一條 北海道鐵道敷設法案
政府ハ北海道ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査
シ及敷設ス

第二條 北海道豫定鐵道線路ハ左ノ如シ
旭川ヨリ以東十勝釧路ヲ經テ網走ニ至ル鐵道

旭川ヨリ宗谷ニ至ル鐵道
奈與呂ヨリ網走ニ至ル鐵道

第三條 北海道鐵道工事ハ實地ノ緩急ニ應シ各線ヲ數區ニ分チ每區ノ工事
ヲ繼續事業トス

第四條 北海道鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ

第五條 北海道鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス

第六條 北海道鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令
第六十六號整理公債條例ニ據ル

第七條 北海道鐵道工事ハ起工ノ年ヨリ向フ十五箇年ヲ以テ成功期限ト
ス

第八條 北海道鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金三千三百万圓ヲ限リ明治二十

九年度ヨリ十五箇年間ニ漸次公債ヲ募集スヘシ
第九條 政府ハ鐵道線路ヲ實測シ每區ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協贊ヲ
求ムヘシ
(公爵近衛篤磨君演壇ニ登ル)

○公爵近衛篤磨君 本日ハ雪ノタメデアリマスカ御出席ガ甚ダ少イヤウデゴ
ザイマス、事ニ依ルト定足數ニ缺ケルカモ知レヌト云フ恐ガアリマス、之ヲ
以テモ諸君ガ北海道ノ事ニ冷淡ナル一ツノ證據ト見テモ宜カラウカト思ヒマ
ス、併ナガラ此雪ノ降ル今日ニ北海道ノ議事ヲ開クト云フノハ是ハ矢張佛家
ノ所謂因縁ト云フノカモ知レヌト思フ、是ヨリ説明ヲ致シマス、過日日本員ヨ
リ北海道鐵道ニ關スル質問書ヲ政府ニ提出致シマス、ソレニ對スル政府ノ
答辯ハ北海道ノ鐵道ニ關スル政府ノ方針ナルモノハ第八議會ニ於テ衆議院議
員ノ百万梅治ト云フ人ニ答ヘタルモノト同一デアアル、又空知太旭川間ノ鐵道
ノ外ノ部分ニ關シテハ豫算ノ設計ガ出來ルト同時ニ此繼續費ノ即チ上川空知
太間ノ經費ノ盡キナイ中ニ要求スルカモ知レヌト斯ウ云フ答辯デアリマス、
其答辯ヲ得テ私ハ至極満足ニ思フデアリマス、サウシテ第八議會ニ於ケル
政府ノ答辯ト云フモノハドウ云フモノデアラマカト見マスルト是亦頗ル私ノ
心ヲ得タモノト思フノデス、餘程答辯書ト云フモノハ浩瀚ナルモノデアリマ
スカラ其中鐵道ニ關スル一部分ノミヲ摘シテ申シマス、斯ウ云フコトガ書
イテアルデス、今日鐵道ノ漸ク發達スルニ從テ之ヲ察スルニ鐵道ハ恰モ交通
運輸ノ主線トナリ而シテ國道縣道之カ支線トナリテ其用ヲナスノ形迹ヲ見ハ
シタリ殊ニ本道ノ如キ新開拓地ニ在テハ鐵道ノ利益最顯著ナリト斯ウ云フ
風ニ論シ來リマシテ尙ホ本道鐵道ノ敷設以來石狩國全部及小樽港ニ與ヘタル
鐵道ノ影響竝ニ其地方ニ於ケル戶數人口ノ年々増加シタル所ノ割合ヲ示シ
テ且ツ之ニ又附加ヘテ書イテアリマス、鐵道ノ延長ハ今日日本道拓殖上ノ
必要ナルコトハ論ナキナリ然レトモ鐵道ノ洪大ナル利益ハ之ヲ買フニ巨額ノ
資本ヲ要スルモノナレハ之ヲ敷設セント欲スルトキハ第一ニ鐵道敷設地方ニ
於ケル固有及將來發達繁榮ノ要素ヲ聯繫スルヲ以テ目的トシ成ル可ク其成蹟
ヲシテ石狩地方ニ於ケルカ如クナラシムルヲ務ムルコトヲ要ス第二ニ成ル可
ク工事ノ容易ナル線路ヲ擇ムコトヲ要ス第三ニ全道ニ布設スヘキ線路中ニ於
テ彼是ヲ比照シ緩急ヲ計較シ其拓殖上、軍事上、交通上、運輸上最必要ナル地
方ヲ先キニシ漸ク以テ其延長ヲ圖ルコトヲ要ス即チ此三要件ヲ標準トシテ考
察スルトキハ左ノ順序ヲ越フテ布設セハ其宜ヲ得ヘシト云フコトニ書イテ
アリマシテ第一ハ空知太旭川ニ出テ「アラヌ」原野ト云フ所ヲ通テサウ
シテ十勝ノ真シ中ヲ貫キテ厚岸ノ方ニ出ル是ガ第一ノ線路、第二ハ上川ヨリ
シテ宗谷ノ方ニ行ク線、第三ハ上川ヨリ北見海岸、即チ北海岸ノ方デアリマ
スガ猿間湖ト云フ湖水ノアル所デアリマス、若クハ網走ノ方ニスルカ猿間湖
ノ方ニスルカ是ハ築港ノ宜イ方ニスルト云フ話デアリマス、サウシテ上川カ
ラ廻ッテ東方線ニ連絡スル線、此三ツガ官線ニナルベキモノデアルト斯ウ云
フ風ニ論ジテアル、サウシテ函館小樽ノ如キニ至ッテハ免ニ角未開ノ地ガ多
イケレドモ海運ノ便利ガアツテ幾分か其便益ヲ助ケテ居ルカラシテ先キニ鐵
道ヲ敷カニヤナラヌ必要モナイト斯ウ云フ説明デアリマス、是ハ最モ私ノ贊
成スル所デアリマシテ此順序等ニ就イテモ更ニ異存ノナイ所デアリマス、即

本年ノ豫算ノ中ニ旭川空知太間ノ建設費ノ要求ノアルノモ全ク此政府ガ第
 八議會ニ於ケル答辯ノ一部分ヲ執行シタルニ止マルモノト考ヘル、此答辯ハ
 過日本員ガ質問致シタ所ノモノニ對シテノ答辯ト相特ツテ頗ル完全ナモノデ
 アル、實ニ此答辯ハ本員ノ意ヲ得タルモノト云フテ宜シイ、併ナガラ此鐵道
 ニ關スル大方針ガ政府ニアリナガラ何故ニカ今日マデ此鐵道ヲ敷設スルニ附
 イテノ繼續費ノ豫算アルトカ何ト云フ實施ノ計畫ト云フモノヲ見ナイノ
 デアル、是ハ甚ダ本員ノ訝ル所デアツテ先日質問ノ理由ヲ述ベル時分ニモ申
 シマシム、抑、繼續費ト云フモノハ、勿論繼續費ノ講釋ヲセヌモ分り切
 ヲ事デアゴザイマスガ、一時ニツレダケノ金ヲ支出スルモノデナイ、年々其必要
 ニ應ジテ緩急ヲ計ツテ要求スルノデアリマスカラ假令三千三百萬圓ノ鐵道工
 費ガ要ルトシテモ繼續費ナレバ一時ニ三千三百萬圓ノ金ヲ支出スル必要ハナ
 イノデアアルカラ更ニ豫算編制上ノタメニ是ガ一時ニ計畫スルコトガ出來ヌト
 云フ理由ハ少シモナイモノト思フ、シテ見タナラバ是ダケノ大方針ガ定マリ
 テ居レバツレニ從ツテ繼續費ノ豫算ト云フモノヲ、編制サレタラ宜カラウト
 思フノデアアルケレドモツレ今日マデ更ニ出サレナカッタ、ツレバ甚ダ本員ハ
 心配スルノデアアル、政府ノ北海道ニ對スル方針ト云フモノハ此ノ如ク明瞭ニ
 示サレタケレドモ其決定スベキダケノ實施ノ方針ヲ示サレヌ所ヲ以テ見レバ
 或ハ尙ホ北海道鐵道ニ關スル政府ノ方針ハ動キツ、アルノデアアルカト云フ心
 配ガアル、何故ニサウ云フコトヲ云フカト申シマスレバ此度戰後ノ財政計畫
 ノ中ニ事業公債ヲ募集スルト云フテ何千萬圓デアリマシタカノ事業公債ノ募
 集ガゴザイマス、併ナガラ開ク所ニ依レバ北海道ノ事業費モ即チ、前ノ第八議
 會ニ於ケル政府ノ答辯ノ如クナラシメタナラバ無論北海道ノ事業費モアルベ
 キ筈デアルト思フ、然ルニ確ナ人ノ説ヲ聽イテ見レバ北海道ノ事業費ハ其中
 ニ籠ツテ居ラヌト云フノデス、政府ハ果シテ北海道ニ鐵道ヲ敷ク積デアアルノ
 カナイノデアアルカ甚ダ私ハ疑フ、實ニ北海道ハ冷遇サレテ居ル有様デアリマ
 ス、又北海道ト云フ所ハ北海道廳ト云フ一ノ役所ノ下ニ立ツテ居ル、サウシテ
 其道廳ト云フモノハ其建築コソ北海道ニ比較シテ立派ナモノデアリマスガ其
 權力ト云フモノハ誠ニ薄イモノデアアル、ドノ位權力ガアルカト云フト實ニ内
 地ノ一地方ニモ及バヌ位ノモノデアアルト思ハレル、其廣漠タル六千餘方里
 ノ北海道デアツテアレダケノ所ヲ開クニ附イテハ非常ノ計畫ヲ要シ非常ニ金
 ノ掛ル所デアアル、然ルニ拘ラズ第一ニ道廳ト云フモノガ仕事ヲスルニハ内務
 省ノ指令ヲ受ケテ然モ内務省ノ一ノ書記官デアルトカ參事官デアルトカ云フ
 者ノ命令スルノヲ待ツテ始メテ仕事ヲスル有様デアアルノハ實ニ北海道ノタメ
 ニ情ケナイ話デアアルト云フハナケレバナラヌ、此ノ如クニシテハ假令道廳ニ如
 何ナル有力ノ人ガ居ツテモ仕事ガ出來ヌノハ無理ノナイ話ト私ハ思フ、ツレカ
 ラ又一方ニハ北海道ニハ自治制ガ是マデ無カッタ、ツレハ一部分ニハ有ツタ
 カモ知レマセヌガ全體北海道ニハ自治制ガ無イノデアアル、ツレバ内地ノ如ク
 地方稅ト云フモノガ無イ、即チ地方稅ガ地方ノ議會デ以テ議決ヲスベキヤウ
 ナ費用マデモ悉ク帝國議會ノ協贊ヲ煩サナケレバナラヌ、例ヘテ云ヘバ巡查
 ノ俸給ノ如キ或ハ戶長役場ノ雜費ノ如キニ至ルマデ皆帝國議會ノ協贊ヲ經ル
 ノデアアル、此ノ如キ有様デアツテ見テハ其度毎ニ衆議院ナリ貴族院ノ議員モ矢
 張其罪ヲ免レヌト思フノデスガ、北海道ニハ是ダケノ金ハ要ラヌ、此モノハ削

除スベシ此モノハ輕減スベシト頻ニ豫算ノ上ニ縮小サレル、ツレハ何カラ標
 準ヲ取ツテ居ルカト云フニ其標準ハ僅ニ内地ノ一地方ヲ標準ニ取ツテ此廣漠
 タル大原野ヲ有スル所ノ北海道ノコトヲ考ヘマスカラ斯ウ云フ話ニナル、シ
 テ見レバ北海道ト云フモノハ實ニ政府カラ冷遇サレテ居レバ民間カラモ冷遇
 サレテ居ル、官民ノ間ニ最モ冷ニ待遇サレテ居ル所謂繼子ノ如キモノデア
 ル、此ノ如ク北海道ニ對シテ冷淡ナル所ノ政府ガ如何ニ質問ニ對シテノ答辯
 ハ立派ナ大經綸ヲ揭ゲテ政府ハ斯クミニスル積デアアルト云ハレテモ私ハ決シ
 テ安心ノ意ヲ表スルコトハ出來ヌ、又議員諸君モ北海道ハ最モ大切デアアル、
 北門ノ鎖鑰デアアルト云ツテ類ニ北海道ノコトヲ口ニサレテモ是マデノ御舉動
 ヲ拜見シタ所デアハ決シテ安心シテ諸君ニ御任セスルコトハ出來ヌト思フ、是
 ガ即チ本案ヲ提出シタ理由デアアル、其本案ナルモノハ即チ官民ノ間ニ冷ニ北
 海道ヲ見ルル人ニ對シテ證文ヲ取ツテ置クノデアリマス、若シモ北海道ヲシテ
 水ニ一ノ港灣無ク又陸上ニ一ノ產物モ無イ所デアアツタラ唯アレダケノ廣漠ノ
 土地ヲ拓カナケレバナラヌト云フニ止マル、併ナガラ若シモ一ノ敵國ガ有
 テ北海道ニ據ルトシタナラバ隨分大軍艦ヲ容ルベキ所ノ港灣ニ乏シカラヌノ
 デゴザイマス、又彼ノ地ニハ石炭ガ多イ、日本ノ人が開發シタル所ノ石炭ヲ
 利用シ其汽車ヲ利用シテ之ヲ運搬シテ軍艦ノ運轉ニ使用スルコトモ出來ルデ
 アラウシ、又ハ屯田兵ノ如キモノ、或ハこゝろ兵ノ如キモノ、ガ彼ノ地ニ移
 テ開發ヲシタナラバ隨分日本人ノ拓イタ土地ヲ耕シテ半年ヤ一年ノ間ハ彼ノ
 土地ヲ支ヘテ居ルコトハ誠ニ輕イ、若シモ此ノ如キ有様デアアツタナラバ内地
 カラ北海道ヲ取返スコトハムツカシイ話デアアル、或ハ内地モ心細イコトニ
 ナツテ來ル、シテ見タナラバ此北海道ト云フ所ハ唯廣漠タル原野ガ有
 テ之ヲ開發シテドレダケノ富源ヲ開クト云フダケデアナイデアアツテ實ニ守備
 スルニモ餘程大事ナ所デアアルト云フハナケレバナラヌト思フ、私ハ軍事ノコト
 ハ甚ダ迂イケレドモ必ズ軍事ニ精シイ人モ此事ニ同意ヲ表セラレラデアラウ
 ト私ハ考ヘル、此ノ如ク大切ナル北海道ノタメニ最モ先ニ必要ナルモノハ何
 デアルカト云フハ鐵道デアアツテ此鐵道ヲ以テ與ノ方ヲ拓クコトモ出來ルダラ
 ウシ或ハ一朝事有ル時分ニハ兵ヲ運搬スルニモ便利デアアラウ、鐵道ト云フモ
 ノガドウモ是ハ北海道ニ取ツテハ最モ急務デアアルト云フハナケレバナラヌデア
 ル、其計畫ト云フモノガ前ニモ述ベタ通甚ダ不充分デアアルカラシテ私ガ安心
 ノタメニ此證文ニ代ニベキ北海道鐵道敷設法案ナルモノヲ茲ニ提出シテ置カ
 ウト云フノハ決シテ無理デアナイ話ト思ハレルデス、又隨分國ヲ賣ツテモ我ヲ
 利益シヤウト云フ山師ノ多イ世ノ中デアリマス、サウ云フ人が隨分多イ時デ
 アリマスカラシテ此ノ如キ大切ナル北海道ヲ其山師ノ玩弄物ニサレルヤウナ
 コトガアツテハト甚ダ憂フルノデアリマス、旁、以テ此鐵道敷設法案ナルモノ
 ヲ今日ニ通過シテ置クコトハ最モ必要デアアラウト思フ、此ノ如ク論シ來リマ
 シタナラバ、論者ハ或ハ斯ウ云フコトヲ言フテ反駁サレラデアラウト思フデ
 ス、内地ニ鐵道ノ敷設法ト云フモノ、出タ時分ニ君等ハ熱心ニ反對シタノ
 デハナイカ、然ルニ今日又所コソ違ヘ矢張鐵道ノ敷設法案デアアルガ同ジ名前
 ノ鐵道敷設法案ト云フモノヲ提出スルノハ自家撞著デアハナイカ、若モ前ノ鐵
 道敷設法案ナルモノガ宜シカラヌモノデアアルナラバ今日又鐵道敷設法案ヲ出
 スハ過ヲ再ビスルノデアハナイカト斯ウ云フコトヲ言ハレルデアリマセウ、併

ナガラ是ハ自家撞著テナイト云フコトヲ私ハ斷言スルノデス、前ノ鐵道敷設法案ノ不可ナルコトハ今日尙ホ認メテ居リマス、又其弊害モ今日ニ比テ起テ居ルト思フノデス、元來内地ノ鐵道敷設法案ト云フモノハ、アレハ一時ノ政略ヲ以テ地方ト地方トノ競争ノ如キモノヲアノ法案一時抑ヘテアツタヤウナモノデアアル、ソレデアアルカラシテ若モ鐵道ヲ、例ヘバ神奈川八王子間トカ或ハ何處ノ線路ト云フモノヲ敷カウト云フ時ニハ必ずソレニ對スル比較線ガ起テ非常ニ競争スルト云フコトハ實ニ彼ノ鐵道敷設法案ガ有ルタメデアラウト言ハネバナラヌ、之ニ反シテ北海道ノ如キハ空漠ナル原野デ何モ無イ所デアアル、サウスレバ主點ト主點トヲ繋グコトガ極ツテ居レバ今日ノ計畫デ實施シヤウト思フ時分ニ或ハ他ニ好イ線路ヲ見附ケタ所ガ或ハ其間ノ五哩十哩ノ所ガ變更シテモ決シテ法律ニ觸レルコトモナイ、又反對運動トカ競争トカ云フコトノ起ル憂モ何モナイ、是ハ即チ北海道ト内地ト事情ヲ異ニスル所デアアルト思フ、ソレカラ又鐵道線路ノ決定ノ如キハ、是ハ行政官ノ處分スベキモノデアアル立法部デ喩フ容ルベキモノデアナイト云フコトモアリマシタガ、ソレハ成程サウ云フ虞ハアルデス、併ナガラ前ニ申シタ通若モ此法案ト云フモノガ無カツタナラバ政府ハ質問ニ對シテノ答辯ニ明ニ追ヒテ北海道ノ計畫ハスルト言フテ居ラレルケレドモ或ハ又其政府委員ガ變リ内閣員ガ變リテ曉ニハ又其廟議ト云フモノガ變更シマイモノデアナイ、モトモト北海道ト云フモノガ世ノ中ニ斯ク冷遇サレテ居ル以上ハ一時ノ都合ニ依ツテ廟議ノ變更ハアリガチノ事ト思フ、ソレ故ニ是ハ事實ノ上ヨリ此ノ如キ法案ヲ決定シテ置クト云フコトハ最モ今日ニ必要ナル事ト思フデアリマス、ソレ故ニ決シテ内地ノ鐵道敷設法案ニ反對シタカラト云フテ此鐵道敷設法案ヲ出スニ就イテ何モ矛盾スル所モナケレバ一向差支モナイ、大體ノ趣旨ハサウ云フナデアリマスガ、此鐵道敷設法案ノ中ニ於キマシテ四本ダケ線路ガ擧ゲテアリマス、是ニハ尙附ケ加ヘルベキ線路ガアリマシテ後ニ心付イタノデ此所ニハ脱ケテ居リマス、ソレハ十勝國利別ヨリ北見國相ノ内ニ釧路國厚岸郡ヨリ根室ニ至ル線路トモウ一ツハ石狩國雨龍原野ムヨリ増毛ニ至ル線路、斯ウ云フモノガ加ハルデアリマシタガ是ハ草案ヲ起ス時分ニ取捨シタノデアリマスカラ、イツレハ加ヘナケレバナラヌコト、思ヒマス、之ヲ加ヘテ後ニコサイマス所ノ經費ノ三千三百万圓ト云フモノニ當ルノデ、決シテ是ダケノ線路ヲ殖ヤシタカラト云フテ三千三百万圓ニ又増加シナケレバナラヌト云フ虞ハナイノデアリマス、本案ヲ提出シタ理由ハ大凡此ノ如キモノデアリマスルガ、モトモト是ハ私共ガ粗造ノ取調デアリマシテ決シテ完全ノモノトハ思ハレマセヌ、直ニ此案ヲ以テ此議場ヲ通過サセヤウト云フコトハ自分ニモ甚ダ不安心ニ思フデアリマス、カラ是ハ矢張定式ノ委員ニ付スルト云フコトニシテ其上デ充分ニ政府ノ意見モ聽キ又我々ノ考ヘル所ノコトモ述ベテ充分審査ノ末ニ議會ヲ通過スルヤウニ致シタイト思フデアリマス、併セテ其委員ノ選定ハ議長ニ委託スルト云フ動議ヲ茲ニ提出シテ置キマス

○子爵曾我祐準君 本案ハ提出者ノ唯今演說ニナリマシタ通マダ不充分ナ所ガアリマセウニ依ツテ委員ニ託セラレ並ニ其委員ハ議長ノ選定ニ任セルト云フコトニ贊成ヲ致シマス

(政府委員松岡康毅君演壇ニ登ル)

○政府委員(松岡康毅君) 唯今近衛公爵ノ御演說ニ北海道廳ト云フモノハ内地ノ一地方廳ト同シヤウナモノデアアツテ内務省ノ一ノ書記官或ハ一ノ參事官ノ指令ヲ待ツテデナクバ事モ行ヘナイト云フ御言葉ガゴザイマシタガ、是ハ何か少シ御聽達ヘドモデハゴザイマスマイカ、明ニ官制ト申スモノハ天下ニ知レ渡ツテ居リマスルモノデ、職權ノ在ル所ハ無論一ノ書記官一ノ參事官ノ指令命令ヲ聽クベキ筋ノモノモゴザイマセズ殊ニ高等官ノ任命ニ至リマシテモ北海道ノ如キハ長官ヨリ推薦ヲマアスル譯ニナツテ居リマシテ他ノ地方廳杯トハ趣モ變テ居リマス、ソレハ僅カ官制上ノコトデアリマス、第一ナカナカ他ノ地方杯トハ違ツテ居リマスルコトハ事業費ト申スコトデモ一箇年間ニハ百万圓内外ト云フモノヲ用ヒテ道路港灣其他拓殖地ノ選定カラ區畫等ノ事ニ用ヒテ居リマス、唯今ノアルタケノ人員ヲ用ヒテ一年中ニ爲スダケノ仕事ハ充分ナ事ヲシテ居ルデアリマス、道路橋梁ト申シマシタ所ガ近衛公爵杯ハ詳シク御承知デゴザイマセウ、北海道ノ土地デゴザイマスカラ人民ノマシキリ居ナイ所ニ道路ヲ拵ヘルコトモ如何ニモ不必要ナ事デア又港灣杯ト申スモノモサウ大金ヲ拵ケテ不調査ノ所ヘスル譯ニモ參リマセヌ、依ツテ港灣ノ如キハ既ニ議會ノ協贊ヲ受ケマシテ小樽ノ港ヘ築港スル所ノ試驗ヲ昨年来致シテ居リマスヤウナ次第デ風浪ノ烈シイ所デゴザイマスカラ容易ニ手ヲ著ケル譯ニハ參リマセヌ、其試驗ガ出來マシタナラバ始メテ本當ノ港灣ニモ手ヲ著ケルヤウナ運ニモナリマセウシ、隨ツテ陸上ノ道路等ハ追ヒニ出來テ參リマセウシ、排水モ出來テ參リマセウシ、移民ノ這入ル所ニハ區畫モソレソレ選定モシマスルシ、ソレカラ山林原野モソレソレ取調等モ今ヤツテ居リマスルノデ、サウ云フコトヲスルノハドウシテスルカト申セバ、金ダケハ議會ノ協贊ヲ求メテヤリマスルケレドモ其仕方ニ至ツテハ一モ他ノ掣肘ハ受ナイノデアリマス、何處ニ道路ヲ拵ヘマセウガ、ドウ云フ設計ニナリマセウガ、山林原野モ道路モ排水モ總テ北海道長官ノ權内デアリマスル金ヲ豫算ニ要求スルト云フダケデ、併シ監督ハ内務大臣ノ下ニ在ツテ之ヲ受ケルト云フコトハ是ハ無論ノコトデアリマスケレドモ、北海道ノ此事業ヲ一ノ書記官ヤ一ノ參事官ノ指揮ノ下ニ在ツテスルト云フヤウナコトハ甚ダ事實ニ違ツタコトデアリマスルカラ、此事ハ一應諸君ノ御聽キニ達シテ置キマセヌト、北海道ノコトニ詳シク而カモ近衛公爵ノ御演說カラ出マシタコトデアレバ、果シテサウ云フヤウナコトガ田舎ノ隅杯ヘ過ツテ傳ヘラレテハ少シ善クナイコト、思ヒマスカラ念ノタメニ辯ジテ置キマス、尙ホ此自治ノ制度ノコトノ御演說モ少キヤアリマシタガ、是ハ政府ニ於キマシテモ即チ市町村制ノ中ニモゴザイマスマルヤウニ、彼地ノコトハ別段デゴザイマシテ、勅令ヲ以テ追追發達ヲシタ所ノ町村杯ハソレ相當ノ治メ方ヲセズバナルマイト云フコトデ、其調ベハ出來マシテ唯今政府ニ於テモ調査中デゴザイマシテ、如何ナル制度ヲ愈、行フト云フコトハ此處デ今申述ベル譯ニハ參リマセヌ、ケレドモ發達ヲシタ町村ト、今移任ヲシタバカリノ處ト又追ヒ入レテ行クト云フヤウナ場所トニ應ジマシテハ一樣ノ制度ノ下ニ立テナイ、依ツテ其區別ニ應ジテ制度ヲ施行カウト申スコトハ調査中デ、而カモ餘程其調査ハ運シテ居リマス次第デ、ソレカラ第一番ニ鐵道ノ御懸念デゴザイマシテ、即チ法案ヲ御提出ニナリマシテ其法案ノコトニ關シテハ何レ政府モ此議場ニ現ハレタコト

(六)

ヲ承知致シマシタ後ニハ評議モスルデゴザイマセウカラ其事ニ附イテハ今別ニ申述ベル次第モゴザイマセウ、ケレドモ唯今マデノ有様ハ諸君へ一應申上ゲテ置クコトハ必要ダラウト思ヒマス、此議場ニ於キマシテ頃日近衛公爵ノ御質問ニ對シテ政府ヲ答辯ヲ致シマシタ所ハ是モ即チ北海道長官ガ年來方針ヲ立テ、測量ヲ爲シ調査ヲ爲シタ其結果デゴザイマシテ、豫算ノ上ニモ申述ベテゴザイマシテ、北海道鐵道計畫ノ一部分ト申スコト旭川鐵道ノ豫算ヲ求メテノデゴザイマス、此近衛公爵ノ御提出ニナリマシタ所ノ他ノ線路ト申スヤウナモノモ恐クバ矢張北海道長官ガ調査シタ所ノモノニ基イタモノデアラウト思ヒマス……

〔公爵近衛篤磨君「勿論」ト呼フ〕

……外ノ人ノ事ヲハナイノデゴザイマス、ソレハ十勝ノ方坏ノ線ニ向ヒマシタモノ、採モ前年ヨリ測量費ヲ求メマシテ、サウシテ昨年ノ冬ニ至リマシタ所デ、略々測量モ出來タノデ、尙ホ當年ノ豫算ニハ宗谷ノ方ニ向ツタ線路ノ測量費ト云フモノモ求メテゴザイマス、皆其順序ヲ立テ、著々實事上ヨリ運シテ當年始メテアレダケノモノ、鐵道ノ實施ヲシヤウト云フコトニ運シテ、サウシテ今マデ人ノ往來等モ少イ不便ナ土地デゴザイマシタカ、一朝夕ニ思ヒ付イテ上川ノ鐵道ヲチヨイトシヤウト云フノハナイ、是マデ運シテ參ルハハツレノ根柢モ有ルシ、是カラ先キニヤツテ參リマスルニハ無論順序ガアル次第デゴザイマス、是ダケハ今マデノ有様ヲ御承知ノタメニ申述ベテ置キマス次第デゴザイマシテ、今日御提出ノ案ニ對シテ彼是申スコトデハ毛頭ナイ次第デゴザイマシタカ、是マデ申シテ置キマス

○船越衛君 唯今松岡君ノ御演說ニ附イテ少シ御尋ヲシタウゴザイマス、北海道ノ事ニ附イテハツレノ著手ノ順序ガアルト云フ御話デアリマシタガ、マダ北海道廳ニ費用デモ多ク與ヘマシタラ今少シ運ブヤウナコトハナイノデゴザイマス、或ハツレ程費用ヲ與ヘテモ相當ニ今日マデノ順序ノ外ニヤア往カナイト云フ御考デゴザイマス、私モ昨年北海道ニ參ツテ少シ實際モ調ベテ見マシタ、御承知ノ通北海道ノ開拓使以來既ニ六千万圓餘モ費用ガ掛ツテ追々開ケタ所モゴザイマス、私等ガ考ヘテ見マシタソレ程國庫ヲ入レテ程ノ效能ハ如何デアラウカト思ヒマス、ソレハ勿論種々ノ原因カラデゴザイマセウガ要スルニ北海道ノ開ケヌト云フノハ一ハ道路ノ運輸ノ便ガ惡ルイカラデアリマセウ、之ヲ開クニハ鐵道ニ如クハナイト見レバマダモウ少シハ運シテ居ラウト、マ素人ナガラ考ヘマス、此上金ヲ入レテモ今御話ノ順序ノ外ニハ運バヌト云フ御考デゴザイマス、ソコヲ一寸一應伺ヒマス

○政府委員(松岡康毅君) 前途ニ向ツテ人モ増シ金ヲ殖ヤシテ仕事ガ出來ルカ出來ナイカツレハ必要カト申スコトハ私ハ御答ヲ申シマセウ、私ノ今申述ベマシタノハ今日マデノ有様ヲ近衛公爵ガ少シ御考違ヒガアルト存ジマスカラ其事實ヲ申述ベマシタガ、是ヨリ後北海道ヘ金ヲ掛ケタラ仕事ガ出來ルカドウカト申スコトハ敢テ茲ニ御答スベキ節デモナシ私ハ御答ヲ致サヌ方ガ宜カラウト思ヒマス

○船越衛君 モウ一ツ、是モ御答ガ出來マセウカ知リマセウガ唯今申述ベマ

シタ通北海道ヲ拓クニハ鐵道ヲ敷設スルガ必要ト考ヘマスガ、如何デゴザイマスカ鐵道ノ事ハ第一鐵道廳……内地デハ……北海道ハ或ハ鐵道局ガ此方ヲ所轄シマシタラ運ビガ早ク行カウト云フ御考ハゴザイマセウカツコソ一應

○政府委員(松岡康毅君) 北海道鐵道主管ノ事ニ附キマシテハ政府デモ色々評議中デゴザイマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 近衛公爵ヨリ本案ハ特別委員ヲ設ケテ、其委員ノ選定ハ議長ニ託スルト云フ動議デゴザイマス、贊成ガゴザイマス、決ヲ採リマス、此動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 多數デゴザイマス、一應休憩ヲ致シマス

午後零時三分休憩

午後一時十四分開議

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本日加藤弘之君箕作麟祥君重野安釋君ヨリ三十四名ノ贊成ヲ以テ本邦速記術創始者田鎖綱紀ニ年金ヲ賜フベキ建議案ヲ發議セラレマシテゴザイマス、市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法案外一件特別委員會ニ於キマシテ委員長ニ子爵曾我祐準君、副委員長ニ辻新次君當選ニナリマシテゴザイマス、鎮守府造船材料資金増加ニ關スル法律案特別委員會ニ於キマシテ委員長ニ男爵小澤武雄君、副委員長ニ長谷川貞雄君當選ニナリマシテゴザイマス、今朝本席ニ御委託ニナリマシタ特別委員ヲ選定ニ及ビマシテゴザイマス、其氏名ヲ書記官長ヲシテ朗讀致サセマス

(中根書記官朗讀)

營業滿期國立銀行處分法案外三件特別委員

伯爵正親町實正君 子爵谷 干 城君 子爵由利 公正君

森山 茂君 平山 成信君 木下 廣次君

小室 信 夫君 小幡篤次郎君 渡邊 甚吉君

北海道鐵道敷設法案特別委員

公爵近衛 篤磨君 子爵曾我 祐準君 子爵岡部 長職君

子爵堀田 正養君 永山 盛輝君 船越 衛君

調所 廣 丈君 村 田 保君 湯地 定基君

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 會議ニ取掛リマス、帝國圖書館ヲ設立スルノ建議案、重野安釋君外一名發議、會議ヲ開キマス、書記官ヲシテ建議案ヲ朗讀致サセマス

(有賀書記官朗讀)

帝國圖書館ヲ設立スルノ建議案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治二十九年二月十日

發議者 重野安釋

外山正一

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿
帝國圖書館ヲ設立スルノ建議

贊成者
公爵一條基弘
外六十九名

明治昭代ノ今日軍事ニ教育ニ漸次其緒ニ就キ益々其擴張ヲ謀ルノ際ニ於テ
特リ帝國圖書館ノ設ケナキハ實ニ國家ノ一大闕點ト謂フヘシ蓋シ帝國圖書
館ハ全國圖書ノ府ニシテ古今内外ノ典籍ヲ貯藏シ國家ノ需用ニ供シ衆庶ノ
閱覽ニ便スルモノニシテ帝國大學及ヒ博物館ノ設ケアルト同様ニ萬々缺ク
ヘカサルノ事項トス然ルニ政府カ今日マテ其設立ヲ謀ラザリシハ維新以
來國事多端ニシテ未タ其邊ナカリシニ因レラハト雖モ既ニ今日ニ至リ
テハ猶豫遲緩スヘキモノニ非サルナリ故ニ政府カ我國家ニ相應シタル一大
帝國圖書館ヲ設立スルノ議ヲ講シテ早晩議會ニ其豫算ヲ提出セラレム事ハ
我々ノ切ニ希望スル所ナリ因テ茲ニ建議ス

明治二十九年二月 日

(外山正一君演壇ニ登ル)

○外山正一君 私ガ此建議案ノ說明ヲ致スコトニナリマシタドウカ清聴ヲ
煩ハシマス、說明ヲ致シマス前ニ此理由書ノ中ニ誤植ガゴザイマス、ソレヲ正
シマスソレハ第三行目ノ下ノ方ニ「佛國ニハ議院圖書館アリ」トゴザイマス此
「佛國ニハ議院圖書館アリ」ト申シマスルノハ是ハ「國立圖書館アリ」ト云フコ
トナノデゴザイマス此誤ヲ正シテ置キマス、此明治二十九年ノ今日ニ於キマ
シテ帝國圖書館ヲ設立シナケレバナラヌト云フコトヲ建議スルト云フノハ私
ニ於テハ實ニ是ハ遺憾ナコトニ思ヒマス今日斯ノ如キコトヲ事ニシテ建議
シ且ツ其必要ヲ述ベル杯ト云フコトハ實ニ是ハ私ハ其本意ナコト、思フテ
居リマス、帝國圖書館ノ必要ナルコトハモウ既ニ數年前カラシテ認メラレテ
居リマス、私ハ思ヒマス、當局者ニ於カレテモ此點ニハ既ニ考モアラ
レタコトデアラウト私ハ思ヒマス、ト言フノハ既ニ數年前ニ殊更ニ支那省カ
ラシテ此圖書館ノ事ニ熱心ナル此圖書館ノ事項ヲ專門トシテ居ル者ヲ歐米
諸國ニ巡視セシメラレマシテ而シテ其圖書館ノ事項ヲ綿密ニ調ベサセタコト
ガアリマス、斯ノ如キ者ガ歸朝シテ參リマスト充分調ベモ調ッテ居リマスル
コトデアリマスニ依ッテ程ナク帝國圖書館ノ設立ニナルト云フコトガ起ルデ
アラウト私ハ存シマシタデ年一年ニ何時此豫算ガ出ルカ何時其事ヲ施行セラ
ル、カト云フコトヲ私ハ待チニ待ッテ居リマス、デアリマス、然ルニ何時マデ
待ッテモ此事ガ一向ニ起ッテ來ナイ、昨年ハ此事ガ議會ニデモ提出セラレ、
アラウカト思ヒマシタガ、所ガ出マセヌ又今年ハ此戰後デアリ百事國家ノ
事業ト云フモノハ段々ト其盛大ニナツテ來ル際デアリマスニ依ッテ此帝國
圖書館ノ如キ國家ニ最モ必要ナルコト、云フモノハ定メシ政府カラシテ其案
ヲ議會ニ提出セラレ、コトデアラウト思ヒマシタ所ガ何ゾ圖ラン今年モ亦失
望ヲ致シマシタノデアリマス、併シ今日マデ帝國圖書館ノ設立ヲ政府ガ計ラ
レナカッタト云フノハ固ヨリ政府ガ爲スベキ事ト云フモノハ數多アリマシタ
實ニ國費多端ナル際デアリマスニ依ッテソレ故圖書館ノ方ニハ未タ考ガ及バ
レナカッタノデアラウト思ヒマス、今年ノ如キモ此事ノ提出セラレナカッタ

云フノハ矢張非常ニ國家ノ經費杯ガ増シマス際デアリマスニ依ッテソレ故先
ヅ其事ハ或ハ一年ヤ二年後レテモ宜カラウ、ソレ程焦眉ノ急ト云フ程ノモ
デモアルマイ、先ヅ軍事其外ノ事ト云ヘバ急ナコトデアラウト云フヤウナ御
考デ以テ本年モ提出ニナラレナカッタノデアラウト私ハ思ヒマス、併シ物事ニ
ハ見ヤウガ色、ニアル譯デアリマス、私杯ハ最モ圖書館杯ニハ關係ノ深イ者
デアリマス、縁ノ深イ者デアリマス、ソレ故ニ自ラ又此ノ事業ニ從事セラレ
ル御方、他ノ政府ノ業務ニ從事セラレ、御方カラ見ルト幾分力違フタ考ヲ持ッ
テ居ルカモ知レマセヌ、ソレデ私ノ見マス所ニ依ルト云フト是ハ決シテ不急
ノ事デナイ、今日ニ於キマシテハ最早一刻モ猶豫ノ出來ヌト云フヤウナ大切
ナル事項デアルト私ハ思ヒマス、其理由ヲ聊カ述ベマシテ諸君ノ御賛成ヲ得
タイト思ヒマス、且ツ政府ニ於テモ此建議ヲ採用セラレテ速ニ帝國圖書館ヲ
設立セラレ、コトニナレバ宜シイト云フコトヲ希望スルノデアリマス、ソレ
デ帝國圖書館ト云フモノハ此理由書ニモ認メテ置キマシタ通一國ノ此國家ノ
生存上ニ一ノ必要ナル大機關デアリマスルデ國ノ歴史ヲ保存シマスルニハ帝
國圖書館ト云フヤウナモノガアツテ是ニ其有ラユル國家ノ書物ヲ保存スル
云フコトハ必要ナル、又一方カラ言ヒマスルト云フト智識ノ是ハ實ニ其必
要ナル元トナルモノデアリマスル、一方ニ學校ト云フヤウナモノガアツテ智識
ヲ授ケ智識ヲ發達セシムルト同様ニ又一方ニハ圖書館ト云フモノガ有ツテ是
ニ就イテ種々ノ智識ヲ求メルト云フ此準備ト云フモノガアルコトハ國家ノ生
存ニ必要ナル事デアリマスル、ソレ故ニ歐米諸國等ノ有様ヲ見マシテモ此國
立圖書館ト云フヤウナモノ、無イ國ト云フモノハ殆ド無イノデアリマス、此
理由書ニモアリマスル通此英佛獨杯ト云フ所ニ於キマシテハ實ニ廣大ナル圖
書館ガ有リマシテ年々ノ經費ノ如キハ莫大ナモノデアリマスル、二十万、三
十万、四十万ト云フヤウナ金ヲ此圖書館ノタメニ費シテ居リマス、ソレデ斯ウ
云フモノガ何レモ外國ニハ有リマスル、然ルニ我國ニ於キマシテハ國立圖書
館ニシテソレデ此公衆ノ便利ニナリ公衆ノ就イテ以テ智識ヲ得ル材料トスル
ヤウナ圖書館ハ唯一東京圖書館ト云フモノガ上野ノ隅ノ山ノ中ニアリマス
ル、是ダケデアリマス、然ルニ此圖書館ト云フモノハドノ位ニ其盛ナルモノ
デアルカ、ドノ位ニ盛ンデナイモノデアルカト云フコトヲ考ヘテ見マスル
實ニ其微々タルモノデアアル、外國ニ於テハ二十万、三十万、四十万位ノ經費デ
アルノニ我邦ノ東京圖書館ト云フモノハ僅ニ八千圓程デアリマス、實ニ微々
タル圖書館デアリマスル、之ヲ國家ノ盛大ナル度ニ考ヘテ見マスルト云フト
實ニ不釣合ニ微々タルモノデアアル、デ政府ノ經費ニ比較シテ見マスルト云フ
ト英佛獨其外ノ國ニ於ケル圖書館ノ政府ノ經費トノ割合カラ見マスルト云フ
ト實ニ少イコトニナツテ居ルコトデアリマス、ソレハ此理由書ニモアリマス
ル通英國ノ如キハ凡ソ二千分ノ一ニナツテ居ル佛國ニ於テハ凡ソ千分ノ一普
魯士ニ於テハ凡ソ三千八百分ノ一自耳義ニ於テハ凡ソ二千二百分ノ一デア
ル然ルニ東京圖書館ノ經費ヲ政府ノ經費ト比較シマスルト云フト、是マデノ處
デ既ニ一分ノ一位デアアル、然ルニ二十九年度ニ於キマシテハ成程圖書館ノ
經費ト云フモノハ減ラヌコトデアリマスルガ全體ニ政府ノ經費ガ非常ニ増シ
テ來マシタ所カラシテ其比較ヲ取ッテ見マスルト云フト却ッテ二十九年度ニ
於テハ餘程減少スルコトニナツテ居ル、殆ド二万分ノ一ト云フ位ニナツテ居ル

ノデア、實ニ他ノ國ニ斯ウ云フコトハ見ナイ所デアリマス、ソレカラ外
國ニ於キマシテ此國立圖書館ノ有ルト云フコトハ此理由書ニ認メテ置キマシ
タガ、マダ其外ニモ何レノ國ニモ國立圖書館ト云フモノガ有リマスル例ハバ
澳地利ニ於テハ維也納ニ帝國圖書館ト云フヤウナモノガ有リ巴華里ニ於テハ
みゆんへんニ公立圖書館ト云フモノガ有リ丁抹ニ於テハこつべんはあげん
ニ公立圖書館ト云フモノガ有リ希臘ニ於テハ雅典ニ有ル和蘭ニ於テハ海
牙ニ有リ伊太利ニ於テハふろろウレンスツレカラなあふる、ちりりん、ばれる
も、羅馬、みらん、威尼期、瑞典ニ於キマシテハサツとくふをるむニ矢張國立圖書館
ナモノガ有リ諾威、瑞典ニ於キマシテハサツとくふをるむニ矢張國立圖書館
ガ有リ葡萄牙ニハ里斯本ニ有リ露西亞ニ於テハ聖彼得堡ニ有リ西班牙ニ於テ
ハ馬德里、瑞西ニ於テハベウるニ有ルト云フヤウニ皆西洋諸國ニ於テハドコ
マデモ此帝國圖書館ト云フヤウナ國立圖書館ト云フヤウナモノ、盛大ナルノ
ハツレノ、國家ノ大小ニ應ジテ備テ居ルデアリマス、ソレカラ此帝國圖
書館ヲ今日設立スルノ必要ノ一ノ理由ト云フモノハ此理由書ニ述ベテアリマ
スル通今日ハ殊更ニ其必要ガ迫テ居ル時デアル、ソレハドコ云フ譯デア
ト申シマスルト一方ニ於テハ日本國ニ必要ナル有益ナル大切ナル書ガ散逸ス
ルト云フ機會ノ最モ多イ時デアル今日ハ私有ノ圖書ト云フモノガ段々ト散逸
スルト云フ時デアル、藏書家ト云フヤウナモノ、舊イ家柄杯テ隨分蓄ヘテ居
タ者舊イ寺杯テ蓄ヘテ居、タ所藏ノ書物ガ段々ト今日ハ散逸スルト云フヤウ
ナ時デアル、ト云フノハドコ云フ事情デアアルカト云フト即チ士族杯ハ世祿ト
云フモノヲ失ヒ、ソレデア元ノ如クニ家ガ立ツテ居ルコトノ出來ヌト云フヤウ
ナ者ガ段々ト出來テ來マシテ矢張寺杯モサウ云フヤウニ領地ヲ失フト云フコ
トカラシテ段々ト書物デアアルトカ寶デアアルトカ云フノガ寺カラ出ルノハ實ニ
多イ時デアル、此時ニ於キマシテハ斯ノ如クニ散逸セントスル所ノ書物ヲ帝
國圖書館ト云フヤウナモノガ有、テ始メテ能ク注意シテサウシテ其大切ナル
書物デアアルト認メタモノハ之ヲ盡ク購買スルト云フヤウナ途ガ立タケレバ
ナラヌ時デアル、然ルニ今ノ東京圖書館ノ如キ經費ノ少イモノニ在、テハ速
モ斯ノ如キコトハ企及バヌコトデアル、ソレ故ニ大切ナル書モ看ス、他
主人ノ手ニ入ルカ或ハ外國人杯ノ手ニ入ルト云フヤウナコトニナル恐レガ最
モ多イ時デアリマス、是ガ其一ツノ大切ナル理由デアラウト思ヒマスルガ
又一方ニ於テハ日新ノ今日デアリマシテ學問總テ日ニ進ム世ノ中デアル此時
ニ當リマシテハ西洋テ出版ニナルヤウナ學術上ノ書物工藝上ノ書物杯ヲ成ル
ベク多ク購買シマシテ備ヘ置テサウシテ研究スル者ノ助ニ備ヘルト云フコト
ガ必要ナルデアリマス、ソレデア學術上ノ書物ハ大學ノ圖書館杯ニハ、充分デ
モアリマセヌケレドモマア追々ニ備ヘテ來ツ、アルノデアリマスガ併シ此大
學ノ圖書館ト云フモノハ之ハ大學ノ中ノ學生及教員ノ參考ノタメ研究ノタメ
ニ用ユル所ノ圖書館デアリマス、ソレ故ニ學術上ノ書物杯ヲ見タイト云ヘバ
矢張公衆ハ東京圖書館ニデモ就イテ見ナケレバナラヌト云フコトデアアル、然
ルニ又東京圖書館ノ如キ僅少ナル經費ハ速モ高尚ナル學術上ノ書物マデテ
備ヘテ置タト云フコト杯ハナカ、出來ヌコトデアアル、旁、以テ此帝國圖書館
ト云フヤウナモノヲ設立シマシテ是ニ國家相應ナ經費ヲ與ヘテサウシテ唯今
述ベタヤウナ主旨ノ目的ニ適サヤウナコトヲ務メナケレバナラヌト思フ譯デ

アリマス、ソレデア今日ハ諸君モ御存知ノ事デアリマスルガ實ニ競争ノ非常ニ
激シイ時デアリマス、デ競争ノ激シイト云フノハ獨リ商業上デアルトカ軍事
上デアルトカ云フノミナラズ人民ノ知識ト知識トガ詰リ競争ノ下ニ在ルノデ
アル、故ニ其知識ヲ進メル所ノ方便ヲ外國ニ劣ラヌヤウ準備スルト云フコト
ハ實ニ此競争ノ上ニ於テ必要ナル事デアアル、其知識ヲ進メルノ一ツノ最モ大
切ナル準備ト云フモノハ即チ此圖書館ノ事項デアリマスルノデ、ソレカラ私
ノ考テハ此圖書館ノ事ト云フモノハ全體カラ考ヘテ見マスルト云フト却
舊幕時代ヨリモ今日ノ方ガ劣、タ有様ニナ、テ居リハセマイカト思フ、ソレ
ハドコ云フ次第デアアルカト申シマスルト云フト舊幕時代ニ於キマシテハ都下
ヲ始メトシテソレノ地方々々ニ藩々ニ於キマシテ公立トカ官立トカ云フヤ
ウナ學校ガ有リマシテソレノ地方々々ニ藩々ニ於キマシテ公立トカ官立トカ云フヤ
ウナ需要ニ應ズルダケノモノハ備、テ居、タノデアリマス、東京デ云ヘバ例ヘ
バ聖堂ニ於ケル所ノ書物デアアルトカソレカラ諸藩ニハツレノ、ソレニ小イ
ヤウナモノガ有、テ而シテ其當時ノモノデ知識ヲ得、當時ダケノ知識ニハ
協、タモノガ有、タ、當時ダゲノ智識上ノ教育ノタメニハ協、タ所ノ圖書館ガツ
レツレノ地方ニ有、タ、然ルニ維新後ニ於キマシテハドコ云フ有様デアアルカト
申シマスルト云フト却、テ其方便ガ少カ、タ位デアアル、或ハ固ヨリ東京圖書館
ノ如キデモア、云フ盛大ナルモノニナ、テ居リマスルガ併シ今日ノ開化ノ程度
ニ比較シ今日ノ世界ノ有様ニ較ベテ見ルト云フト我ガ此方便ガ少ナ、タ位デ
アルト思フ、今日ノ需要ニ迫モ應ズル譯ニ往カナイモノデアリマスルカラシ
テサウ云ハナケレバナラヌ、ソレカラ地方杯ニ至リマスルト尙ホ更ノコトデ
アラウト思フ、今日地方デモ、圖書館ト云フヤウナモノガ何處ニ有ルカト云
フト一向無イコトデアラウト思フ、偶、高等學校デモ在ル所ニ於キマシテハ其
學校ニ附屬シタ圖書館ト云フヤウナモノガ有リマセウケレドモ其外ニ各市ニ
於キマシテモドコ云フ圖書館ガ有、テ此圖書館ニ就イテ其人民ガ知識ヲ得ル
コトガ出來ルカト云フト殆ド一ツモサウ云フ方便ト云フモノハ立、テ居ラヌ
ト言、テ宜カラウカト思フ、然ルニ外國ノ有様ハドコデアアルカト云フコトヲ考
ヘテ見マスルト云フト實ニ此圖書館ノ事ト云フモノハ非常ニ發達シテ居ルノ
デアリマスル、英國ノ如キハ、此市町村立ノ公立ノ圖書館ガ二百四十程モア
ル、亞米利加ニハ、尚ホ澤山有ル、六百七十程圖書館ノ數ガ有ル、ソレカラ佛蘭
西ノ如キニ於キマシテハ、巴里ニハ此國立ノ圖書館ト云フモノ、盛大ナルモノ
ノ外ニマダ外ニモソノ二ツ三ツナカ、ハ、宏大ナル圖書館ガ有ル、ソレカラ其
外通俗ノ圖書館ガマダ澤山有ル、六十四五モ有ルヤウナコトデア、ソレカラ地
方ニハマダソノ二百モ圖書館ガ有ルト云フコトニナ、テ居ル、獨逸ニ於テモ全
國ヲ連ネマシテ公立圖書館ノ數ガ凡ソ二百二十七モ有ルヤウナ次第デアアル、其
他澳地利デアアルトカ伊太利デアアルトカ瑞士デアアルトカ白耳義デアアルトカ和蘭
デアアルトカ云フヤウナ所ニ皆大同小異ノ圖書館ト云フヤウナモノガナカ、
盛ニナ、テ居ルノデアアル、殊ニ此英吉利ト亞米利加ノ合衆國ノ如キハ圖書館
條例ト云フヤウナモノガ有リマシテサウシテ地方稅ヲ以テ圖書館ヲ設立スル
ト云フコトヲ獎勵スル法杯ガ立、テ居ルト云フコトデアリマス、ソレカラ此圖
書館ノ外國ニ盛ニナルコトヲ容易ニ見ルコトガ出來ルコトガアリマス、ソレ
ハツノ英吉利アタリニ於キマシテハ此圖書館ノ事項ノ最モ盛ニナノハぼるみ

んぐはむ、まんちえすとる斯ウ云フ所ガ盛シデアアル、又亞米利加ニ於テハ波
 土敦迄かこ杯ト云フ所ガ圖書館ノ盛シナ所デアアル、而シテ其經費ト云フモノ
 ハばるみんぐはむダケデ以テ十萬圓モ費シテ居ル譯デアアル、ソレカラまんち
 えすとるハ十萬圓程費ス、波土敦ニ於テハ二十萬圓程費ス、一がこニ於テハ
 二十萬圓ト云フヤウナツノ莫大ナル經費ヲ此タツタ一ツノ町ニ於テ費シテ
 居ルト云フコトニナツテ居ル、此外ニモ歐米ニ於キマシテハ又大學ニ非常ニ盛
 シナ圖書館ガ有リマス、殊ニ亞米利加杯ニ於キマシテハ昨今圖書館ノ如キ事
 業ノタメニ寄付金杯ノ莫大ナルヲスル者ガ有ル、ソレ此間アタリモ紐育ノ或
 ル大學へ日本ノ金ニスルト二百萬圓カラモ圖書館ノ費用ヲ寄付シタ者ガ有ル
 ト云フ位デアアル、ソレデアアルカラ外國ニ於ケル圖書館ノ盛シナコト、云フモ
 ノハナカク、東京圖書館位ヲ見テ居ル者ノ夢ニモ見ルコトガ出來ナイト云フ
 次第デアアル、德斯ノ如ク盛ナル所ノ圖書館ガ有テ之ニ就イテ人民ガ皆知識ヲ
 得テ居ルノデアアル、晝モ夜モ其圖書館ニ就イテ皆知識ヲ鍊磨シテ居ルト云フ
 ノデアアル、我國モソレニ對スル所ノ矢張一ツノ國デアアル、斯ウ云フ國ト競争
 ヲシテ往カナケレバナラヌト云フ場合デアアルノニ我ガ帝國ノ人民ノ如キハ斯
 ウ云フ方便ガナイタメニ之ニ就イテ知識ヲ得ルト云フコトモ出來ズニ唯暗黒
 世界ニ……圖書館ノ上デ云フト暗黒世界ニ居ルヤウナモノデアアル、圖書館ト
 云フモノハ今日ノ所デハマルデツノ暗闇ノヤウナモノデアアル、而シテ我邦ニ
 於テ今日マデ圖書館ヲ興サナカツタト云フノハ圖書館ノ必要ダト云フ其理由
 ヲ知ラナカツタメデアアル人民ガ果シテ圖書館ト云フモノヲ必要トセヌト云
 フコトデアアルカト云フコトヲ考ヘテ見マスルト云フト決シテサウ云フ譯デア
 ナイ、若シ此ニ圖書館ガ開イテアレバ彼東京圖書館ノ如キ實ニ此東京市ノ隅
 ノ方山ノ中ニ在ル所ノモノデモ之ヲ利用シテ居ルト云フコトハ實ニ非常ナコ
 トデアアル、今日ノ場合ニ於テ其書物ヲ來テ讀ミマスルト云フモノハ最早日々
 來ル所ノ者ヲ彼圖書館ノ閱覽室ニ於テハ入切レヌト云フ位ニ詰掛ケテ來ルノ
 デアルガ此場所ノ狹イタメニ來觀者ヲ謝絶シナケレバナラヌト云フコトガ往
 往アル位ノ次第デアアルデアアル、若シ之ヲ東京市ノ中心ノ處ニ置キマシテ盛
 大ナル圖書館ニシタラドノ位來觀者ガ有テドノ位其智識ノ増進ニ益スル
 コトデアアルカ知レヌコトデアアラウト思ハレル、ソレカラシマシテ此殊ニ昨今
 日清戰爭杯ノ起ツタメニ此圖書館ニ來テ戰爭上ノ事項ヲ窺ハウト云フヤウ
 ナ者ガ其餘程多クナツタデアアル、ソレカラシマシテ又全國ノ經濟杯ノ事ニ附イテ
 種々ノ心配杯ガ起ツテ來ルサウ云フ心配杯ノコトニ附イテハ隨分外國ニモ其
 例ガアラウト云フモノデ普佛戰爭ノ結果ハドウ云フモノデアアルト云フヤウナ
 コトヲ窺ヒタイト云フ者ガ東京圖書館ニ澤山ヤツテ來ルノデアアル、僅ニ東京圖
 書館ト云フモノガ有テ幾分か其人ノ需要ニ應ズル方便ガ立ツテ居リマスカ
 ラシテ幾分か今日デモ其望ヲ果スコトガ出來ルノデアアリマス、然レドモ此
 全國東京以外ノ場所ニ於テハドウデアアルカト云フト全ク闇ノ有様デアアル、ド
 コヘ往ツテ此經濟上ノ問題ヲ研究シテ宜イカ、ドコヘ往ツテ此戰爭ノ結果ノ
 參考トナルベキモノヲ觀ルベキカト云フトドコモ少シモ其無イノデアアル、全
 ク地方ノ人民ト云フモノハ如何ニ研究心ガアツテモ如何ニ國家ノタメニ心配
 スル者デモ其調ヲスル所ノ途ガ少シモ立ツテ居ラヌト云フノガ今日我邦ノ圖
 書館ノ有様デアアルデ是テ其外國ト競争ガ出來マセウカ、外國デハ如何ナル其

邊鄙ナ處ト雖モ圖書館ノ適當ナルモノガツレク備ツテ居ツテ其人民ノ國家
 ノタメニ心配スル者デアアルトカ知識ヲ得タイト思フ者ハ是ニ就イテ研究スル
 コトノ出來ルヤウニナツテ居ルノデアアル、然ルニ日本人ハ東京圖書館ダケヲ
 僅ニ持ツテ居ツテ全國ハ皆サウ云フ知識ヲ得ルコトガ出來ズ、國家ノタメニ
 研究スルコトモ出來ナイト云フヤウナ有様ニナツテ居ルノデアアル、ソレ私
 ハ決シテ此外國トナカク、競争ト云フノハムツカシイコトデアアラウト思フ
 デアリマス、ソレカラシマシテ殊ニ今日ニ於キマシテ此圖書館ノコトノ誠ニ悲
 シムベキ有様デアアルト云フコトハ此東京圖書館ノ僅ニ二千圓ト云フヤウナ
 モノデアリマス、經費ノ少イタメニ此節デハ晝間ダケ縱覽ヲ許シテ夜分ハ
 此閱覽ヲ許スコトガ出來ヌト云フヤウナ次第デアアル、實ニ嘆ハシイ次第デア
 ル、夜分ハ來ラレヌ晝間ハ場所ガ狹イタメニ拒絕サル、ト云フコトデアアル、
 然ルニ外國デハドウデアアルカト云フト夜分モ開イテ晝間モ望ミ通ノ物ノ縱覽
 ガ出來ルコトニナツテ居ル、而シテ圖書館ハ一箇ニ止マラヌモノデアアル全國
 ニ有テ晝夜モ皆開ケテ居ルト云フヤウナ有様デアアル、サウ云フコト
 ヲ考ヘテ見ルト實ニ圖書館ノコト、云フモノハ嘆ハシイモノデアアル、今日マ
 デ斯ノ如ク之ヲ爲シテ置イタト云フコトハ實ニ是ハ痛マシイコトデアアルト私
 プ、一刻モ早く此有様ヲ救ハヌケレバナラヌト云フ其必要ガ起ツテ居ルト私
 ハ思フノデアアル、ソレ今日此地方ガマルデ其圖書館ノコトニ於テハ關デア
 ル研究ノ材料ガ無イト云フヤウナコトヲ其地方々々デハ或ハマダ今日ハ感シ
 テ居ラヌカモ知ラヌト云フノハ郵便ノ如キデモ鐵道ノ如キデモ是ガ出來テ之
 ヲ利用シテ見ルト云フトモウ其必要ト云フコトヲ感シ利益ヲ感ズルコトデア
 ルガ若シ無ケレバソレレデ濟シテ居ルノデアアル、人ガソレ程ソレニ氣ガ附カヌ
 ト云フコトガアリマス、若シ今日此郵便ノ今マデノ制度ヲ廢シテ昔ノヤウナ
 飛脚屋主義ニ改メ或ハ旅ヲスルニモ鐵道ト云フモノヲ廢シテ昔ノヤウナ籠
 デ以テ旅ヲスルト云フヤウナコトニナツタラバ實ニ其不足ヲ感ズルコトデア
 アリマセウ、ソレデ圖書館ニ於テモ丁度サウ云フコトガアルノデアアルノ學生
 ガ地方へ行クコトヲ其嫌フ、尤モ嫌フ理由ノ一ト云フモノハ地方へ行ケバ學
 問ヲスルコトノ途ガモウナイ、地方ニ行ケバ田舎ニナレバナル程馬鹿ニナ
 テ仕舞フ、斯ウ云フ地方ニ居ラツシヤル御方ハサウハ御感シハナイデアアリ
 セウガ東京カラシテソレレデ其學問ヲスル途ガアツテソレニ附イテ學問ヲスル
 コトノ出來タ者ガ俄ニ其地方ニ行クト云フコトニナルト云フト其不足ヲ著シ
 ク感ズルノデアアリマス、ソレ今日ノ所デハ大學ノ學生ガ地方ニ教員ナル
 コトヲ實ニ好マヌ、好マヌト云フ其重モナル理由ハ何デアアルカト云フト地方
 へ行ケバ一年ニ馬鹿ニナツテ仕舞フト云フノデアアル、研究シタクテモ研究
 ガ出來ズ、歴史家デアレバ歴史ノ研究ヲ尙ホ續ケテヤリタイト云フトモ地方
 へ行ケバモウ調ベルコトガ出來ナクナルト云フヤウナコトデアアル、ソレガタ
 メニ今日デハ學生ヲ多ク地方へ出スト云フコトハ餘程困難ニナルコトニナ
 テ居ルノデアアリマス、斯ノ如キ有様デアリマスニ依ツテ此一方ニ於テハ此
 東京ノ市ノ最モ中心デアラウト云フヤウナ處ヘ盛ナル圖書館ヲ建テルコトガ
 必要デアアル、此建議ト云フモノハ其タメノ建議デアリマスルガ豫テ私ノ希望
 スル所ハ地方ニ於テ有力ナル所ノ多額納稅議員杯ト云フ御方又華族方デ地方
 ニ勢力ガ御アリナサル所ノ諸君ハドウカ其地方々々ニ於テソレク其適當ナ

ル所ノ圖書館ヲ御設ケテナクテワレ極ク深イ所ヲ研究スルニハ東京ノ圖書館ニ來ナケレバナラヌガ併シ大概ノ處ハ其地方ノ圖書館ヲ研究ガ出來ルト云フヤウナ途ガ立ッテラバ實ニ國家ノタメニ賀スベキ事デアラウカト思フ、海外諸國ト我人ヲシテ能ク競争ヲナシムルコトノ出來ル最モ必要ナル是ガ方便デアラウカト私ハ思フテ、此案ハ即チ政府ニ於テ帝國圖書館ヲ建テラレルコトヲ希望スルノ案デアリマス、ソレハ即チ政府ニ於テ諸君ニ於テ地方々々々々ソレノ適當ナル大キサノ圖書館ヲ御設ケニナランコトヲ御盡力アラマラ宜カラウト私ハ思フ、ソレカラシマシテ終リニ此帝國圖書館ノ事ニ附イテ私ガ是ハ私ノ希望デアリマスガ私ノ希望丈ヲ述ベマスルト云フト一ツハ固ヨリドナタモ御異論ナイコトデアリマセウガ固ヨリ市ノ最モ都合好イト云フ便利ナル所ヘ建テラレンコトヲ希望スルノデアリマス、其又一ツト云フモノハ帝國圖書館ニハ私ガ當局者ニ殊ニ御聽キヲ願フノデアリ、政府委員杯ニ御聽キヲ願フノデアリ、ソレハ外ノ事デアリマセウガ帝國圖書館ヲ設立セラレレトハドウカ其中ニ出版入費ト云フモノヲ可ナリ多ク御設ケニナルコトヲ希望スルノデアリマス、此出版入費ト云フモノハ外國ノ圖書館杯ニハ餘リ無イモノデアリマセウガ日本ノ圖書館ニ於テハ出版入費ト云フヤウナモノガ極メテ必要ナノデアリト私ハ思ヒマス、ソレハドウ云ウ事デアアルカト申シマス、ソレト御承知ノ通日本ニハ是マデ寫本ガナカク多イノデアアル、寫本デア貴重ナルモノガ澤山有ル、是ハ段々ト出版シテ行クト云フトガ必要ナノデアアル、ソレ段々ト書籍集覽ト云フヤウナモノヲ段々出版ニナリマス、ソレガ商法上デアルモノト云フモノハ其書物ノ價値ヲ……大切ナルコトヲ專ラ計ルノミデナクテ他ニ利益上ノコトヲ計算シテ出版スルト云フヤウナコトガアルモノデアアル、又賣レノ好クナイヤウナモノハドウシテモ是ハドウモ出版ガ出來ヌト云フヤウナモノガアル、又校正モ隨分粗漏デアルト云フヤウナコトモ或場合ニ於テハアルヤウニ見ヘル、ソレデアリマスルニ依テ極ク必要ナルモノデアリテ書籍杯ハナカク利益上カラシテ出版スルコトガ出來ヌト云フヤウナモノハ此帝國圖書館ノ出版ニモナルヤウニナラタラ宜カラウト思フノデアリマス、ソレカラ又日本ノ書ニ最モ必要ナ一ツノコト、云フモノハ日本ノ書ニハ看出シト云フモノガ無イコトデアリマス、目錄モ無イノガ澤山アルコトデアリマス、看出シノ無イト云フコトハ實ニ書物ヲ取扱フテ、書物ヲ見ヤウト云フ者ニ誠ニ不便ナルモノデアアル、ドノ位時ヲ費ヤスカ知レヌ、今日ノ如クニ調ベルコトガ多クナリ、書物が多クナル時ニ當テハドウシテモ看出シト云フモノ、良イノヲ拵ヘルコトハ……書物ニ看出シガ無ケレバ書物ハ殆ド役ニ立ヌト云フ位ナコトヲ今日デアハ言フテ居ル位デアアル、然ルニ日本ノ書物ニハ看出シト云フモノガ一向無イヤウナコトデアリマス、故ニ是カラシテ段々ト日本ノ書ニ看出シノ誠ニ便利ナルモノヲ拵ヘルト云フコトガ必要デアルト思フ、ソレ等ハ矢張帝國圖書館杯ノ事業デアアルト私ハ思フノデアアル、ソレ故ニ此ノ如キ費用ノタメニ此出版入費ト云フヤウナモノヲ帝國圖書館ヲ設立スル際ニハ設ケラレルコトガ必要デアラウト私ハ思フノデアリマス、ソレカラシテ又斯ノ如キモノガ出來レバ是カラ地方ニ段々ト圖書館ガ起テ來ル其地方ノ圖書館ニ原價デ、モ賣レバソレ程費用ノ上ニ於テモ其タメニ特ニ費ヤスト云フコトデアリシニ濟ムカモ知レヌ、

費ヤス所ノモノハ又ソレダケ金ガ歸テ來ルト云フヤウナコトモ出來ルカモ知レヌト思フ、ソレデ是カラ地方へ多クノ圖書館ガ出來ナケレバナラヌニ依テ斯ウ云フ方便ヲ設ケテサウシテ此帝國圖書館ニ於テ斯ノ如キ出版事業杯ヲナスト云フコトモ私ハ希望スル所デアリマス、ソレデアリマス杯ノコト、云フモノハドウモソレ程面白クナイモノデアリマスニ依テ人モソレ程注意スルコトモナシ又圖書館ノコトニ附イテ演說杯ヲシテモ説明杯ヲシテモ或ハ却テ睡氣ヲ催スト云フヤウナ有様デアアルカモ知レマセウガ併シ此私ニ於テハ八人ガ眠ル如キコトガ却テ此タメニ起キテ居テサウシテ働カナケレバナラヌコトデアラウカト私ハ思フノデアリマス、ソレデアリマス若シ幸ニ當局者モ容レラレルコトデアリマスレバ當局者ガ御眠リニナラテ居ラシヤラヌケレバ私ハ實ニ満足ニ思フノデアリマス、ソレデアリマス早晩此案ニ依テ必要ナル議案ヲ議會ニ提出サレテ見事海外ノ圖書館ニモ劣ラザル所ノ帝國圖書館ヲ建テラレルコトヲ偏ニ希望スルノデアリマス

○田中芳男君 本員ハ聊カ此案ニ附キマシテ意見ヲ述ベタウゴザイマスカラ登演ヲ御許ニナリマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 暫ク御待チ下サイ、先刻ヨリ定足數ヲ段々調ベマシタ所ガ何分本日ハ追へ人數ガ減リマシテ定足數ヲ缺キマシテゴザイマス、依テ此會議ハ明日ニ延べルコトニ致サウト存ジマス……内閣總理大臣ヨリ谷子爵外一名ノ質問ニ對スル答辯ガアリマシタニ依テ書記官長ヲシテ朗讀致サセマス

○外山正一君 唯今定足數云々ト云フコトガ議長カラノ御言葉デアリマシタヤウニ思ヒマスガ其答辯ノコトハ定足數ノ限ニアラヌコトデアリマスルカ、ソレヲ一寸伺ヒマス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) ソレハ決議トハ違ヒマスカラ即チ答辯書ヲ朗讀サセマシテ諸君ニ御聽キニ入レマスルコトデアリシテ其答辯書ト云フモノハ速記録ニモ掲ゲルデアリマスカラ諸君ハ後デア御承知ニナルコトデアリマス、依テ定足數ニ滿タヌデアモ答辯書ヲ讀マシテ差支ハナイト本席デア見テ居リマス、議決トハ違ヒマス

(中根書記官長朗讀)

貴族院議員子爵谷干城君外一名ヨリ教育高等會議創設ニ關スル質問ニ對シ文部大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御回付候也

明治二十九年二月十三日

内閣總理大臣 侯爵伊藤博文

貴族院議長 侯爵蜂須賀茂韶殿

明治二十九年二月七日

文部大臣 侯爵西園寺公望

貴族院議長 侯爵蜂須賀茂韶殿

貴族院議員子爵谷干城君外一名提出教育高等會議創設ニ關スル質問書ニ對スル答辯書

問書ニ對スル答辯書

貴族院議員子爵谷干城君外一名提出教育高等會議創設ニ關スル質問書ニ對スル答辯書

一教育高等會議ノ創設ニ關スル貴族院建議ノ主旨ヲ按スルニ教育ノ方針ヲ確定セシメンガ爲メ文部機關ノ外別ニ教育高等會議ナル一機關ヲ創設シ

教育上重要ノ事項ニ關シ審議翼贊セシメントスルモノ、如シ然ルニ政府ニ於テハ此ノ如キ會議ヲ設ケ教育行政ヲ束縛スルハ國務大臣ノ職責ヲ空フスルモノト認ムルヲ以テ此建議ニ同意スル能ハサルコトヲ表言セサルヲ得ス

右及答辯候也

明治二十九年二月七日

議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 明日ノ議事日程ヲ御報告ニ及ヒマス、書記官長ヲシテ朗讀致サセマス

(中根書記官長期讀)

午前十時開議

- 第一 獸疫豫防法案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員) (長報告)
- 第二 帝國圖書館ヲ設立スルノ建議案(重野安釋外) 會議(前會ノ續)
- 第三 本邦速記術創始者田鎮綱紀ニ年金ヲ賜フヘキ建議案(加藤弘之君)
- 第四 復祿及復族祿ノ請願
- 第五 郡分合ノ請願
- 第六 古社寺保存方法及保存會組織ニ關スルノ請願
- 第七 最上川治水ノ請願
- 第八 農業會議所設立ノ請願
- 第九 信濃川流末改修ノ請願
- 第十 神戶港稅關擴張及波止場増築ノ請願
- 第十一 米原敦賀間鐵道柳ヶ瀬隧道改修延長及水災補助ノ請願
- 第十二 軍人軍屬從軍病死者遺族扶助料及一時賜金ニ關スルノ請願
- 第十三 東海道鐵道複線ニ關スルノ請願
- 第十四 岩淵線工事線上ノ請願
- 第十五 閘門設置ノ請願
- 議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本日ハ散會
午後二時十四分散會

貴族院議事速記録正誤

頁	段	行	誤	正
一三三	下	二四	英	露
一四三	下	九	ヲ	ハ
一四三	下	九	イタノ	キマセヌ
一六四	上	一〇	モ井	ハ井
一六四	上	一一	其後段々増	...
一六四	上	一一	加シテ	...
一六四	上	一一	一年	其後段々増加シ
一六四	上	一一	員ハ	...
一六四	上	一一	ソレカラシ	...
一六四	上	一五	テ年	...
一六四	上	一五	人	...
一六四	上	一六	全	ソレカラシテ全
一六四	上	一六	文字	文字
一六四	上	一七	給	...
一六四	上	一七	タ	...
一六四	上	一七	費用	...
一六四	上	一七	月給八十	補助
一六四	上	一七	ニモナルト	...
一六四	上	一七	位ニナル	...
一六四	上	一七	費用	...